

筑波教育学研究

第 6 号

2008年3月

筑波大学教育学会

目 次

〈投稿論文〉

- メディア文化系課外活動団体における「部誌」の意味の構成
—社会構成主義的パラダイムによるメディア・
リテラシー教育に関する一考察— …………… 石 田 喜 美 1
- 中学生の教師に対する信頼感と他者との心理的距離との関連
…………… 中 井 大 介
庄 司 一 子 21
- 分権改革下における地方教育行政組織の再編に関する一考察
—市教育委員会所管事務の
首長部局への移管に焦点を当てて— …………… 戸 室 憲 勇 35
- スクールカウンセラーによる不登校生徒に対する支援
—「居場所環境」という視点からの考察— …… 杉 本 希 映
庄 司 一 子 51
- 青年期における悩み方とメンタルヘルスとの
関連および悩み方を規定する要因の検討 ……… 都 丸 けい子
庄 司 一 子 69
- 中高一貫校におけるリーダー育成のための
カリキュラム開発に関する研究
—筑波大学附属駒場中・高等学校の「文化祭」での
リーダー経験に注目して— …………… 安 藤 福 光
平 田 知 之
田 中 統 治 87

異文化における「日本型」カリキュラム実践の経験

—JICA「派遣現職教員」の報告書分析を中心に—

..... 緩 利 誠
緒 方 真奈美
田 中 統 治 103

数学的モデリング能力の特定方法に関する研究

—原場面への注目と課題分析マップの援用—

..... 松 壽 昭 雄 119

〈研究動向〉

教育制度学における近年の研究動向

—日本教育制度学会における研究活動を中心として—

..... 藤 田 晃 之 135

〈書評〉

宮寺晃夫著

『教育の分配論：公平な能力開発とは何か』 門 脇 厚 司 149

佐藤真理子著

『アメリカの教育開発援助—理念と現実—』 桑 原 隆 157

岡部善平著

『高校生の選択制カリキュラムへの適応過程

—「総合学科」のエスノグラフィー—』 服 部 次 郎 163

根津朋実著

『カリキュラム評価の方法

—ゴール・フリー評価論の応用—』 井 上 正 允 171

〈図書紹介〉

嶺井明子編著

『世界のシティズンシップ教育

—グローバル時代の国民／市民形成—』…………… 江口 勇 治 179

Masami Isoda, Max Stephens, Yutaka Ohara, Takeshi Miyakawa

『Japanese Lesson Study in Mathematics; Its impact,

Diversity and Potential for Educational Improvement』

…………… 平山 満 義 185

学会彙報（平成19年1月～12月）…………… 193

筑波大学教育学会会則・諸規定（抄）…………… 196

『筑波教育学研究』投稿規程…………… 200

編集後記…………… 201

学会彙報 (平成19年1月～12月)

平成19年1月から12月までの学会の主な事業・活動は以下の通りである。

I. 第6回大会

平成19年3月17日(土)に筑波大学附属駒場中・高等学校を会場として開催された。下記に紹介するように、午前の自由研究には、13件の発表があり、午後からは「授業力を高める教職教育の未来を探る—現場の実践と大学における教育とを融合する視点から—」というテーマでシンポジウムが開催された。大会参加者は、約60人であった。

なお、大会期間中に理事会(出席者16名)と総会が開催された。

〈自由研究発表〉

第1分科会 司会 平山満義(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

1. 数学的モデリング能力の特定に向けて

—原場面への注目と課題分析マップの援用—

松崎 昭雄(筑波大学附属駒場中・高等学校)

2. 話し合い学習におけるグループ構成とその影響に関する考察

初谷 和行(筑波大学附属坂戸高等学校)

3. 英語の語彙指導研究 —機械的学習の効果を中心に—

工藤 泰三(筑波大学附属坂戸高等学校)

4. 中高一貫校における才能教育とリーダー育成のためのカリキュラム開発研究(3)

—駒場卒業生へのグループ・インタビューの結果を中心に—

○安藤 福光(筑波大学大学院人間総合科学研究科院生)

○平田知之, 小林 汎, 宮崎 章(筑波大学附属駒場中・高等学校), 井上 正允(佐賀大学文化教育学部), 根津 朋実, 藤田 晃之, 田中 統治(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

第2分科会 司会 大谷 奨 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)

1. ミズーリ大学のキャリア形成支援における準専門職学生の役割と効果
—問題対応的な対個人支援に焦点を当てて—

橋場 論 (筑波大学大学院人間総合科学研究科院生)

2. 米国のハイスクール職業教育改革プログラム“High Schools That Work”における外部機関からの支援

石嶺 ちづる (筑波大学大学院人間総合科学研究科院生)

3. 学校設定教科「産業」から見たキャリア教育への視点

小澤 信治 (筑波大学附属坂戸高等学校)

4. 子育て支援と「親になる」ための学びに関する考察

—「親のコミュニティ形成」に着目して—

平塚 知真子 (筑波大学大学院教育研究科院生)

第3分科会 司会 川瀬 邦臣 (東京学芸大学)

1. 『綴方生活』における教育観

飯田 和明 (筑波大学附属中学校)

2. 池袋児童の村小学校の研究(3) —土井竹治の位置と教育思想—

門脇 厚司 (筑波学院大学)

3. 教育の情報化を推進する校内組織の現状と課題

津賀 宗充 (筑波大学大学院教育研究科院生／茨城県立鉾田第一高等学校)

4. イギリスにおける「学校を中心とした教員養成 (School-Centred Initial Teacher Training: SCITT)」の運営実態とその課題

田里 友基 (筑波大学大学院教育研究科院生)

5. JICA「派遣現職教員」支援のための課題 —派遣隊員報告書の分析を通して—

○緩利 誠 (筑波大学大学院人間総合科学研究科院生)

緒方 真奈美 (筑波大学大学院人間総合科学研究科院生)

坪田 耕三 (筑波大学附属小学校)

田中 統治 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)

◇シンポジウム

『授業力を高める教職教育の未来を探る

—現場の実践と大学における教育とを融合する視点から—

趣旨説明 : 江口 勇治 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)

提案者 ・ 附属学校教員の立場から

山口 正 (筑波大学附属中学校)

平野 延行 (筑波大学附属坂戸高等学校)

・ 大学で教科教育を指導する立場から

井田 仁康 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)

・ 中教審専門委員を務めた立場から

天笠 茂 (千葉大学教育学部)

コメンテーター : 新井 保幸 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)

司会 : 小林 汎 (筑波大学附属駒場高等学校)

佐野 享子 (筑波大学大学研究センター)

II. 学会ホームページの作成

本学会の活動を広く広報するとともに、会員間のコミュニケーションを促進する目的で、平成19年12月15日付けでホームページを開設した。なお、URLは、下記の通りである。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/aseut/index.html>

III. 学会会報

第11号を6月15日に、第12号を12月15日にそれぞれ発行した。

IV. 12月末現在会員数：332名

筑波大学教育学会会則

平成14年3月5日制定

平成19年3月17日改正

第1条（名称） 本学会は、筑波大学教育学会（The Academic Society for Education of the University of Tsukuba）と称する。

第2条（目的） 本学会は、教育学研究の向上をはかり、会員の研究の交流協力につとめつつ、併せて会員相互の親和連絡を深め、教育文化の進展に寄与することを目的とする。

第3条（事業） 本学会は、前条の目的を達成するために次の各号の事業を行う。

- (1) 年次大会の開催
- (2) 研究会の開催
- (3) 研究紀要の発行
- (4) 会報の発行
- (5) 内外の学会等との交流
- (6) 会員の研究交流
- (7) その他、本学会の目的を達成するのに必要な事業

第4条（会員） 本学会の会員は、次の各号の一に該当する会員で組織する。

- (1) 筑波大学教育学系及び筑波大学附属学校教職員（転・退職教員を含む。）
- (2) 筑波大学大学院修士課程及び博士課程の教育関連専攻もしくはコース等の在学者、修了者及び中退者
- (3) その他、本学会の趣旨に賛同して入会を希望する者

第5条（会費） 本学会の会費は年額4,000円とする。但し、学生会員については3,000円とする。

第6条（会計年度） 本学会の会計年度は、1月1日から12月31日までとする。

第7条（運営） 本学会に、会務の運営のため、次の役員をおく。

会長 1名、理事 20名、顧問 若干名、幹事 若干名、監査 2名

2 役員は、第4条第1号及び第2号の会員より選出する。

3 役員を選出規程は、別に定める。

4 前項の規程にもかかわらず、会長は、当分の間、教育学系長がこれにあたる。

5 役員の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

第8条（編集委員会） 本学会に研究紀要編集委員会をおく。編集委員会規程については別に定める。

第9条（総会） 本学会は、年1回総会を開き、本学会の重要事項を審議決定する。

第10条（事務局） 本学会の事務局を〒305-8572茨城県つくば市天王台1-1-1筑波大学大学院人間総合科学研究科（教育学系）におく。

附則 本会則は平成14年3月5日より施行する。但し、第6回総会において可決された改正については、平成19年3月17日より施行する。

筑波大学教育学会役員選挙規程

平成14年3月5日制定

平成19年3月17日改正

第1款 総則

第1条 筑波大学教育学会会則に定める役員を選出するために、筑波大学教育学会役員選出規程（以下、規程）を定める。

第2条 理事選挙（会長を除く）は、役員任期の最終年度の9月1日から12月31日までの間に実施する。

第3条 有権者は、当該年度の9月1日までに前年度までの会費を納入している会員とする。

第4条 規程に定めのない事態が生じた場合は、理事会が判断する。

第2款 理事の選出

第5条 理事選出の区分は、次の種類と定数による。

- | | |
|---------------------|-----|
| 1 会員による投票により選出された理事 | 10名 |
| 2 会長により委嘱された理事 | 10名 |

第6条 前条第1号の理事の選出は、全有権者の無記名郵送投票による。

第7条 投票は10名連記とする。

第8条 当選は、得票順とする。

2 同点者の生じた場合は、選挙管理委員会において抽選を行う。

3 理事に欠員の生じた場合は、次点者をもって補い、その任期は前任者の残任期間とする。

第9条 第5条第2号の理事は、投票により選出された理事が確定した後に、会長が委嘱する。

2 会長は、投票により選出された理事の所属・地域等を考慮して10名の理事を委嘱する。

第3款 顧問、幹事、監査の選出

第10条 顧問、幹事、監査は、理事会の推薦により会長が委嘱する。

第4款 選挙管理委員会

第11条 理事の選挙を行うため、選挙管理委員会（以下、委員会）を置く。委員会は、3名の会員をもって構成する。

第12条 委員会の委員は、理事会の推薦により会長が委嘱する。

附則 本規程は、平成14年3月5日より施行する。但し、第6回総会において可決された改正については、平成19年3月17日より施行する。

筑波大学教育学会研究紀要編集委員会規程

- (1) 本学会は、会員の研究発表の場として、機関誌『筑波教育学研究 (Tsukuba Journal of Education Study)』を発行する。発行は、年1回(3月)とする。
- (2) 編集委員会は、理事会の委嘱を受けた委員長及び委員10名によって構成される。委員長及び委員の任期は、2年とする。
- (3) 会員は、投稿の資格を有する。投稿原稿は、原著論文とする。
- (4) 編集委員会は、会員以外の者に原稿を依頼することができる。
- (5) 原稿の採択は、編集委員会での査読と審議を経て、決定する。
- (6) 編集委員会は、掲載予定の原稿について、投稿者との協議を通じて、内容の修正を求めることができる。
- (7) 投稿細則は、別に定める。

『筑波教育学研究』投稿規程

1. 投稿者は筑波大学教育学会会員であること。ただし依頼論文についてはこの限りではない。
2. 機関誌への投稿内容は、未刊行のものに限る。
3. 論文の投稿は、原則として、ワードプロセッサを使用し、横書き、A4版用紙1頁あたり40字×30行で作成し、注および引用文献を含めて16,000字（400字詰め原稿用紙40枚相当）程度とする。欧文の場合は注および引用文献を含めて6,000語程度とする。
4. 原稿の締め切りは9月末日とする。
5. 論文には邦文タイトルと英文タイトルを付記するとともに、邦文による400字程度のサマリーを付す。
6. 投稿にあたっては、原稿3部、およびMS-DOSテキストファイルに変換したフロッピー1部を送付するものとする。原稿およびフロッピーは原則として返還しない。
7. 研究論文とは別に、研究ノート、実践報告の投稿も受け付ける。その際、規定3-6項に準拠する。
8. 図版等で特定の費用を要する場合、執筆者に負担させることがある。
9. 原稿は、氏名（ふりがな、および英文表記）、所属（ふりがな、および英文表記）、自宅住所（郵便番号、電話番号）、利用可能な場合、ファックス番号、メールアドレスを付記して、下記に送付するものとする。

記

〒305-8572

茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学教育学系内

筑波大学教育学会編集委員会

編集後記

『筑波教育学研究』第6号が完成致しましたので、ここにお届け申し上げます。今号には9編の論文の投稿があり、審査と必要に応じた修正を経て、最終的に8編の論文を掲載できるはこびとなりました。投稿論文の他には、書評が4編、図書紹介が2編、研究動向1編を掲載しております。投稿論文が対象とする研究領域が多岐にわたり、そのため非常にバラエティに富んだ内容構成となっているのが今号の特徴です。また、大学院生の投稿数が増えたことも、今号の収穫だったと思います。

今号は、編集委員会のメンバーを大きく入れ替えて編集した、第1号となります。庄司編集委員長の下、会員の皆様のご意見をお聞きしながら、少しでも良い学会誌を編集していくつもりです。そのためには、皆様のご協力が必要不可欠です。皆様の貴重なご意見をお待ちしておりますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

教育改革の動きは留まるところを知りません。教育現象の多様化も進行するばかりです。そのような現状に対峙し、新たな教育研究を構築していくために、ここに載せられた貴重な論文等が役立っていくことを願って止みません。本学会の目的にも明記された「教育文化の発展に寄与する」学会誌を会員の皆様と創造していくために、第7号以降への投稿をお待ち申し上げます。

(唐木清志)

筑波大学教育学会編集委員会

編集委員会委員長

庄司 一子 (筑波大学)
(ichiko@human.tsukuba.ac.jp)

編集委員会

秋川 陽一 (倉敷市立短期大学)
上谷順三郎 (鹿児島大学)
岡部 善平 (小樽商科大学)
唐木 清志 (筑波大学)
窪田 眞二 (筑波大学)
田中 統治 (筑波大学)
鶴岡 義彦 (千葉大学)
羽根田秀実 (北海道教育大学)
平田 諭治 (筑波大学)

編集幹事

中井 大介 (筑波大学大学院)

筑波教育学研究 第6号

2008年3月10日 発行

編集・発行 筑波大学教育学会
〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
印刷 株式会社いなもと印刷
電話 029(826)1221
